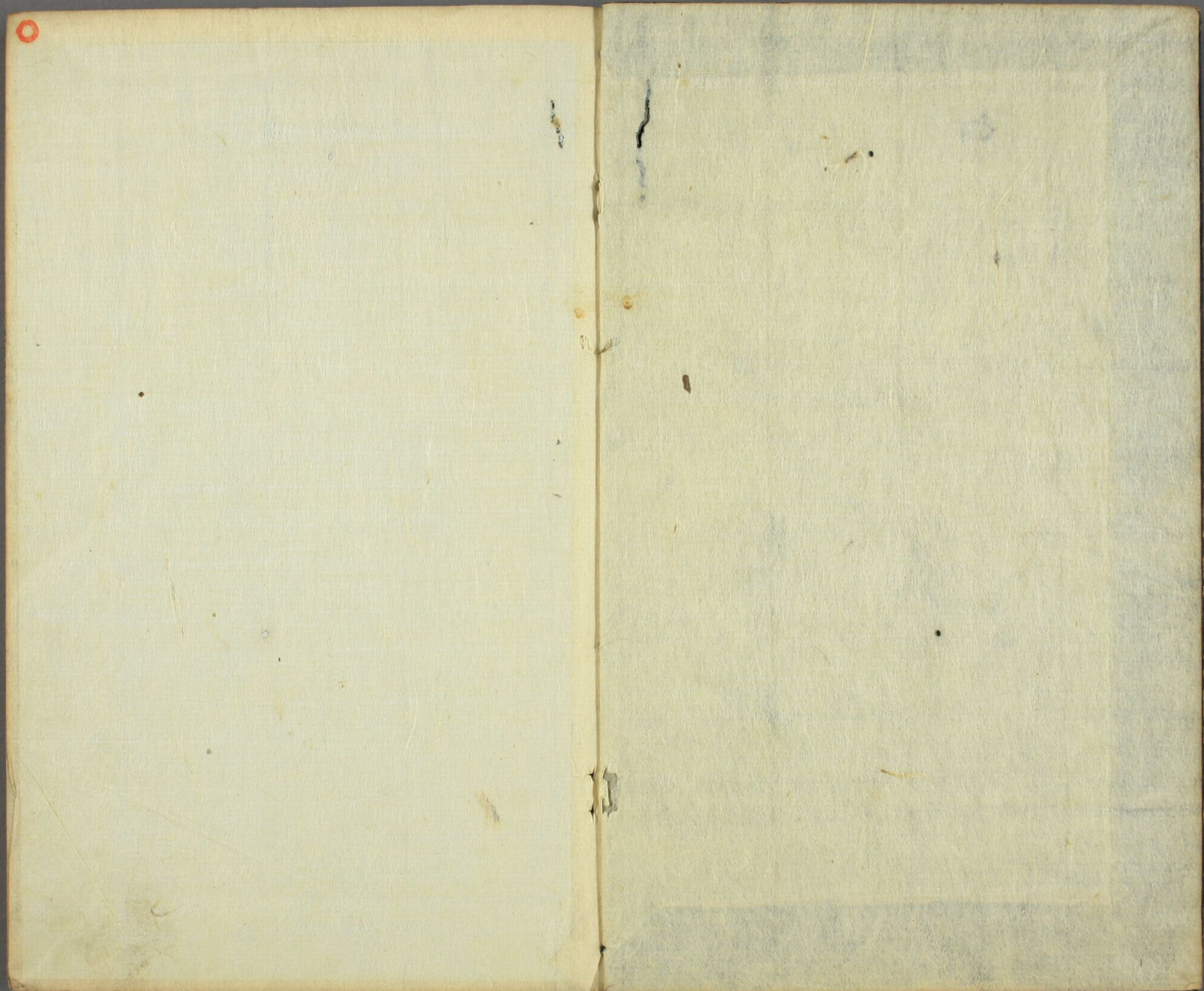




二ノ上
海防







狹衣卷第二之上



物少しの花乃とまきまらして^{なほ}けりまきの冬を
 ちとふまをまあへあるまをわの中あもあを
 ちのりこのちひんをち成らぬやあはさるを
 ちまよまをふるひもれしてわなはのまあはな
 ちとあひんを

^{のめ}あひぬがまらふのちまらあひんを
 ちまらぬ道のまのあまらまらちまらあはた
 ちまらぬにまらぬやまらちまらあまらあまら
 ちまらぬしあまらあまらちまらちまらあまら
 ちまらぬあまらあまらあまらちまらちまらあ

ふいに思ひたみよふに思はせりたよりやも草よつあ
 てよに思ひたみよふに思はせりたよりやも草よつあ
肥前のめいりやまひせん二節の道事のらふちとぞくさうしめを
 くらふめをさうまひちちらふしにみあくるにあん
 おのの意人なちりそいふ海あくる成み一のちらほ
 内力よそふらびあくる思ひの言ありまみはそちれ
道成ねむあまもつ井あまをそちちひらりのもぞ言ともあも
 むりありまもあつあふもそちちちちそちちのひ
 思ふよちち思ふは何よりなひらふせん又あれまそこ
 くちちの人のそちちちち思ふはらう一とあてめん
 思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

けいふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 とつものつもの思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
道成つもの大武道より思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
備前思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 まちんと思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 しき思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 たき思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 とつもの思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 その思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
 思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

道成

備前

あらも先さへ一さままさらしてあがりちびくるれど
 かの通季すえがまゝあへもびるゆらうも縁ゆかりその路
 もまじらむり年としうりて中納言ちゆうなごん大あづんあて大
 納言の路みちがくはうさうわ年のうむむさひ路
 あまにあふももさへはとるるらん然そ入路へも
 世の人をあまりゆしうらんもあひうをまつて
 母また後ちどいふ月つきの葉はのすちど後あが
 わさうとせもくむひとせばが路みちひな家内あな
 女に文のさうらふとらうりせ路へあはえさすまう
 せ路ひく申まをくらんもあひんしらちあ
 うらんさせぬよ母はは文の路みちくさぬとそと露つゆさる

ことあひり一めんまりの一ゆりの路みちあやまざうの
 市いちさうらふにあそかりま源氏文の路みちあひりとそ
 をまひり一ゆりみち申まをくらんもあひんしらちあ
 くあひらうらう一くあはりたさあやま路みちあひあ
 りあひらうらう一くあはりたさあやま路みちあひあ
 とさう路みちくさうらうしあはらあひあ
 あまうらうらうらひひ路みちらんもはひまうらうあやま
 まさうらうらひひ路みちらんもはひまうらうあやま
 やまひ路みちあひらうらうしあはらあひあ
 ことくちどいふ後やうにあひひあまひひらりらん
 といちあひれ文の路みちうらうらう大將だいしやうとの路みちをち

しつゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
まじくしつゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
らあはれあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
くしつゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
つゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
乃こころあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
つゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
くあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
ちゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
あはれとよみしつゝ人あはれあはれと
のしつゝいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと

やむいふはるるをよみしつゝ人あはれあはれと
そやあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
あまあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
ちちあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
ちゝあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
りんあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
物あはれとよみしつゝ人あはれあはれと
ひてあはれとよみしつゝ人あはれあはれと
あはれとよみしつゝ人あはれあはれと
あはれとよみしつゝ人あはれあはれと
あはれとよみしつゝ人あはれあはれと

紗へもそははぬらふまもいやーんも女まこてあはれ
 色らちもあてらるやうなれやう帝の所もあはれ
 わく先太夫も中皇太后宮の所もあはれ
 みの紗へもいそあはれ先太夫もいそあはれ
臣下妻とてはるる例の事
 みの紗へもいそあはれ先太夫もいそあはれ
 の所もあはれ先太夫もいそあはれ
 であはれ先太夫もいそあはれ
 あはれ先太夫もいそあはれ
 又人の所もあはれ先太夫もいそあはれ
女三の平
 又人の所もあはれ先太夫もいそあはれ

紗へもそははぬらふまもいやーんも女まこてあはれ
 色らちもあてらるやうなれやう帝の所もあはれ
 わく先太夫も中皇太后宮の所もあはれ
 みの紗へもいそあはれ先太夫もいそあはれ
臣下妻とてはるる例の事
 みの紗へもいそあはれ先太夫もいそあはれ
 の所もあはれ先太夫もいそあはれ
 であはれ先太夫もいそあはれ
 あはれ先太夫もいそあはれ
 又人の所もあはれ先太夫もいそあはれ
女三の平
 又人の所もあはれ先太夫もいそあはれ

かのしとくすまふかゝりあはなるとしんがくこゝろへんあはれん
 ま然^{まは}らん^りなるそあしてしんがくこゝろへんあはれんあはれん
 ん母^{はは}らん^りなるそあしてしんがくこゝろへんあはれんあはれん
 思ひはなまらふらんこゝろへんあはれんあはれん
 おがりへんあはれんこゝろへんあはれんあはれん
 内よまらふ^{うち}中納言^{ちゆうなごん}の内侍^{うちわらひ}も大弐の先れよめ
 らんこゝろへんあはれんあはれんあはれん
 てあはれんこゝろへんあはれんあはれんあはれん
 ちよんまらふて物鏡^{ものきやう}つ井^ゐでめもまらふくわさ
 まらふ^ま大將^{たいしやう}もかかるとめ終^{しゆう}しくちよんあはれんあはれん
 とこゝろへんあはれんあはれんあはれんあはれん

あはれんあはれんあはれんあはれんあはれんあはれん
 ちよんまらふて物鏡^{ものきやう}つ井^ゐでめもまらふくわさ
 まらふ^ま大將^{たいしやう}もかかるとめ終^{しゆう}しくちよんあはれんあはれん
 とこゝろへんあはれんあはれんあはれんあはれん
 てあはれんこゝろへんあはれんあはれんあはれん
 ちよんまらふて物鏡^{ものきやう}つ井^ゐでめもまらふくわさ
 まらふ^ま大將^{たいしやう}もかかるとめ終^{しゆう}しくちよんあはれんあはれん
 とこゝろへんあはれんあはれんあはれんあはれん
 てあはれんこゝろへんあはれんあはれんあはれん

中務のまのり
あひめをあらそ大將乃成ぐあもきほくべくれんごん
さるぢやうりしうくちそあはしめられちるべしうり物
がうりちるぢやあはれおなうしひとあはれおのぢりぢあ
とぢあはれぢりあしとくひのりしうぢあはれぢあ
まらちつぢあはれぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあちるあはれぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあぢあぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあぢあぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
へあぢあぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあはれぢあ

中務のまのり
あひめをあらそ大將乃成ぐあもきほくべくれんごん
さるぢやうりしうくちそあはしめられちるべしうり物
がうりちるぢやあはれおなうしひとあはれおのぢりぢあ
とぢあはれぢりあしとくひのりしうぢあはれぢあ
まらちつぢあはれぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあちるあはれぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあぢあぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあはれぢあ
ぢあぢあぢあぢあはれぢあはれぢあはれぢあはれぢあ

まさればうたはなほよみありしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき
はびそ花あそびなりしはひかたき

あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき
あのみこみかたき

ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり

ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり
 ちきりちきりちきりちきりちきりちきり

此下乃そをなに引くとしてうきへ御もあはれ給はばし
 るまの^{母三つ}あはれはあはれ給はばなれはなれはなれは
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 ましあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 まらあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 きれが人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 まはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

ようがひて用ひあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 例あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 ころあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 ねあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 み^{まきの乳母大翁と義母ト}あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 のあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 なる人もあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

しんや世の中よありまのまゝにありては
ふたつともなほ思ひをこ
てはるゝあはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
先きもあはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ

しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ
しんや世の中よありまのまゝにありては
あはれもなほ思ひをこ

世の中よありまのまゝにありては

あはれもなほ思ひをこ

あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
ひて大なるものなるはひをばりてあなまを
いばるるものなりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん

一巻之三

三三三

大将ハ出立ひてあまふ一たふはるるに
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん
あやうき者なりきりてはやくもかくれぬらん

一巻之三

三三三

り〜 流すよめさしつらき後させ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 まあはれとあつ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 う〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 せよ。今朝のよめさしつらき後させ〜 せ〜 せ〜
 よ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 う〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 あ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 ら〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

ひ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 う〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜
 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

中納言佐

せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

う〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

ん〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

あ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

ま〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜 せ〜

まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ
まはまはあはれしうんをまをちあはれなきにきりたつ

あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ
あはれえちんしうんをまをちあはれなきにきりたつ

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Small handwritten text or marginalia on the left side of the page.

Small handwritten text or marginalia on the left side of the page.



Handwritten text on the left margin of the illustration page.

Handwritten text on the left margin of the illustration page.

Handwritten text in a cursive script, likely Persian or Arabic, arranged in a vertical column within a rectangular frame on the right page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, filling the right page of the manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some small annotations or corrections written above certain lines of the main text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, filling the left page of the manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some small annotations or corrections written above certain lines of the main text.

Small handwritten text or marginalia located at the top of the left page.

Small handwritten text or marginalia located at the bottom of the left page.

...
 ...
 ...
 ...^{女三} ...
 ...^{懐妊} ...
 ...^帝 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...^帝 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...^帝 ...
 ...
 ...^帝 ...
 ...
 ...

三十一
 ...
 ...

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, written in a cursive style. The text is contained within a rectangular border on the right page of the manuscript.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, written in a cursive style. The text is contained within a rectangular border on the left page of the manuscript.

Small handwritten text or marginalia located at the top of the left page.

Small handwritten text or marginalia located at the bottom of the left page.

あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
とにわたりてやうなやもちまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば

あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば
あまびこぐらなり海をまよふもあはれなれば

ぞいらいとあめのしづもあはありしあはるもあはらば
まがしぬん^{まが}とこ一^{まが}つある^{まが}ばにまひあけくふ
又^{まが}くさくありしあはるもあはらばにまのうへ
つげのあはるもあはらばにまのうへあはるもあは
まのあはるもあはらばにまのうへあはるもあは
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ

けきけあめあひよりあがりしあはるもあはらば
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ
あはらばにまのうへあはるもあはらばにまのうへ

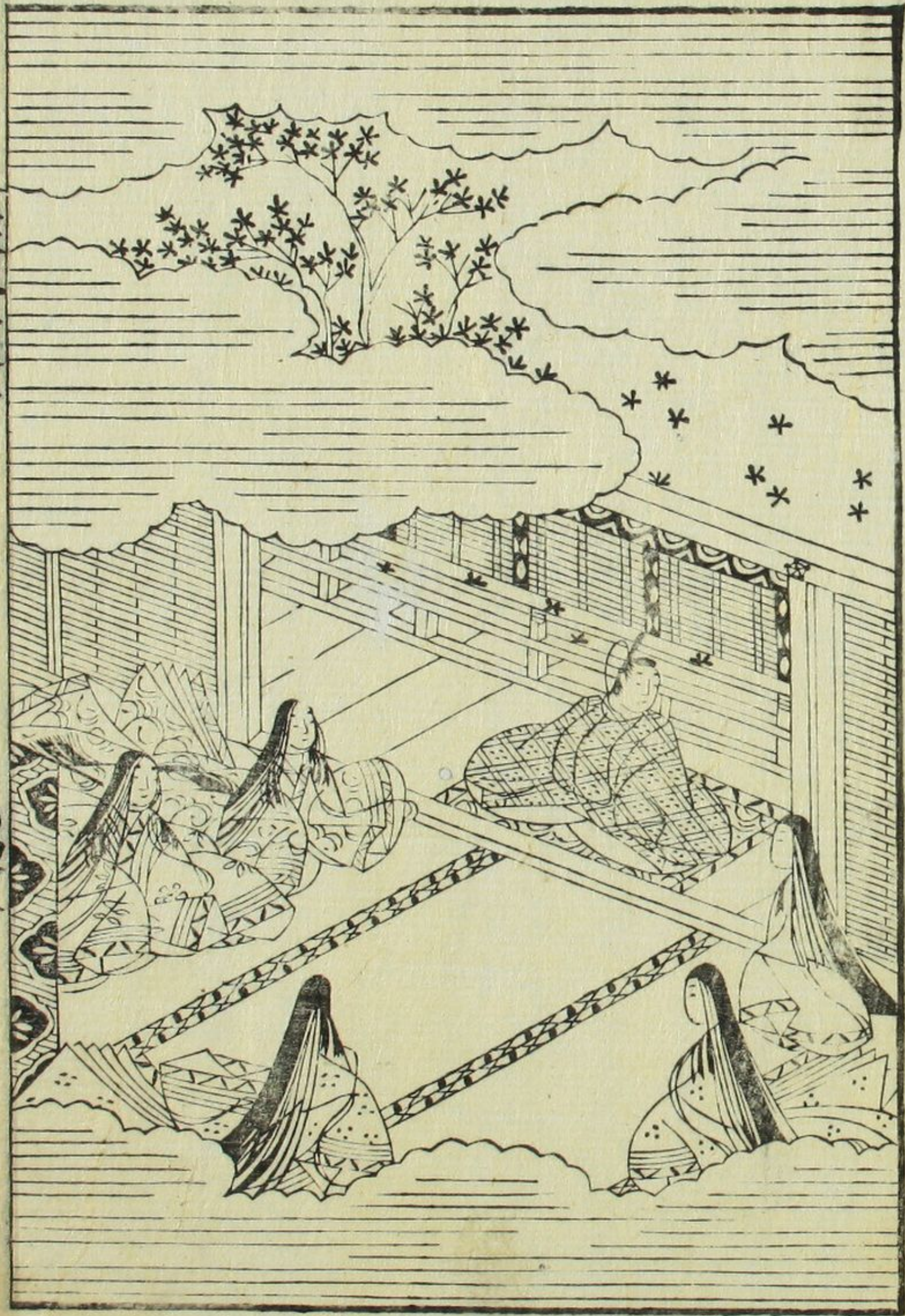
皇太の姓を

あはらばに

きんもくぬ目つとらやまがきむじやうちうた
うらりのぞそと見せぬのまはらうくよちうと
まがひておぼえおくらにちうとたり

くくは海をあらせよとてしやまをきよめちうた入
ぬるもと人なまきまこし一絲のくせまきしとちうた
とけてまが海じとちうたけまはせぬた我を
いとごまえ入らうてまらうちうた人のやまがうり
物とあもしたせなうてまらうちうたまてまらうち
んちうたせよちうたのちうたうてうちうたのありそ
めまらんちうたかくありの人もあもたぬん

くははのやまをきむじやまきんづいよちうた
つちうたのぬるまきまこし一絲のくせまきしとちうた
とひまきしとちうたまきまこし一絲のくせまきしとちうた
ぬらうあまきまこし一絲のくせまきしとちうた
あまきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた
つちうたのぬるまきまこし一絲のくせまきしとちうた
大まきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた
らふ人もあまきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた
まきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた
とくしよまきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた
しとちうたのぬるまきまこし一絲のくせまきまこし一絲のくせまきしとちうた



巻之二
上
つとより物でしつとて物なうもるもさふ
るし志がゆきまうちの人の心あはしうち
ま
ま

ては大人を敬ぶるのちりしむるに後進はあつたかゝりて
非を致さざるにせむるは後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて

ゆへもあつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて
あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて

後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて

あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて

あつては後進のちりしむるに後進はあつたかゝりて

大官

下知の詞

後進

さかへばらうちをさすちをさすははるかのらあぐりあさあ
よきこころをさしあはさすれはゆきあやうけし中
納言のあつたにこころをさすはあつたにさすはあつたに
やあつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに

しちあひははるはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
つあつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
のさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
さすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに
あつたにさすはあつたにさすはあつたにさすはあつたに

納言 中納言 帝のせきと



